

令和1年度 社会福祉法人淳邦会 事業報告

特別養護老人ホーム のぞみ荘

地域密着型特別養護老人ホーム のぞみ荘

ケアハウス オパール

デイサービスセンター オパール

オパール居宅介護支援事業所

福田高齢者支援サブセンター

グループホーム ひなぎく

育成推進室

令和1年度 事業報告

特別養護老人ホーム のぞみ荘

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

施設サービス計画を各職種で共有しご利用者それぞれのニーズに沿った生活の援助を行った。

また看取り介護については職員及び家族との情報共有を密にし年間4名(退所者12名中)を対応した。看取り後もカンファレンスを行い、支援について個別の工夫や課題、反省をするとともに亡くなられたご利用者への想いを共有することで意思を尊重したサービスに努めた。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

定期のボランティア活動(フラワーアレンジメント支援、社会貢献活動など)は受け入れたが、夏祭りは内容を変更したためボランティアの受入れが出来なかった。また、新型コロナウイルス感染症対応で新規等の受入れの回数等が減少している。

ショートステイは職員減少により稼働率を上げることは出来なかったが、在宅復帰に不安がある退院者を受け入れるなど出来る限り柔軟に対応した。

・優秀な福祉人材を育成する

職員減少のなか通常業務を維持することや新型コロナウイルス感染症の影響もあり外部研修の開催や参加が減少し研修計画を達成できなかった。しかし、開催方法の見直し等で定期的な施設内の勉強会などは各種委員会を中心に継続実施することができた。

人事異動による人事交流は職員減少により実施することができなかったが、新しく採用した職員に対し勤務の調整や委員会を活用することで業務の伝達を行い育成に努めた。

・人が活きる職場環境を整備する

職場環境の改善策として電動ベッド9台や移乗介助具を導入した。排泄ケアを見直し、介護負担軽減に努めた。

今年度の退職者は18名を数えた。人員不足を補うため就職面談会への参加やSNS等を活用するなど職員の充足を図った。

・安定した経営を継続する

排泄ケアの見直しで適正な資材の使用を意識し効率化と経費削減に努めた。

稼働率は30年度に比べ0.6%下降93.9%となり、目標の稼働率95%を達成することが出来なかった。

ショートステイは、職員減少により入所制限したため稼働率42.8%で、目標の75%

を大きく下回る結果となった。

- **業務管理体制（法令等遵守）を徹底する**

委員会活動を中心に利用者対応においては法令順守に努め日々の支援の見直しを行った。特に身体拘束廃止、不適切ケア防止、苦情対応などはリスク委員会での検討と情報共有に努めた。

消火避難訓練は、法令適用範囲内で行うことができた。また地震災害対応訓練も計画通りに実施できた。

令和1年度 事業報告

地域密着型特別養護老人ホーム のぞみ荘

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

「人生を大切にし、尊厳の気持ちをもって援助を行う」を目標に掲げ、ご利用者それぞれのニーズを重視し支援を行った。また、意向を尊重し3名（退所者6名中）の看取りを行った。看取り後もカンファレンスを行い、支援についての個別の工夫や課題、反省をするとともに亡くなられたご利用者への想いも共有し意思を尊重したサービス向上に努めた。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

地域や他施設から参加のある運営推進会議において、テーマに合わせ写真等を活用した資料で報告を行うなど情報を共有することで交流を図った。

・優秀な福祉人材を育成する

外部研修への参加回数が減少したが施設内研修等を実施することで人材育成に努めた。人事交流は実施することができなかった。

・人が活きる職場環境を整備する

職場環境の改善策として電動ベッドや移乗補助具を導入した。排泄ケアを見直し、介護負担軽減を図るなど環境の整備を行った。

・安定した経営を継続する

排泄ケアの見直しで適正な資材の使用を意識し効率化と経費削減に努めた。

平均入院日数の減少はあったが入院件数の増加もあり年間の平均稼働率は93%と目標の95%を下回った。

・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

リスク委員会を中心に身体拘束廃止、不適切ケア防止への意識向上に努め、安心・安全・快適な生活環境をめざし、居住空間の環境整備に努めることで介護事故の減少に結び付けることが出来た。また、消防避難訓練や地震災害対応訓練を実施した。

I 入所者の状況

【入退所状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所者	0	0	2	0	0	2	0	3	2	2	0	2	13
退所者	0	2	1	1	1	1	2	1	4	3	3	0	19

【介護度別入所者延べ人数】

従来型(50)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
要介護2	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
要介護3	240	248	240	248	248	274	296	315	337	310	290	309	3355
要介護4	630	651	630	617	620	555	572	520	549	489	450	496	6779
要介護5	558	620	576	557	535	513	492	519	519	558	454	517	6418
稼働率	0.97	1	0.98	0.94	0.93	0.92	0.9	0.92	0.93	0.9	0.88	0.88	0.93

地域密着型(20)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
要介護3	159	155	162	213	181	208	186	173	162	155	145	171	2070
要介護4	150	155	150	155	198	150	155	150	162	216	174	186	2001
要介護5	240	221	201	210	166	188	186	215	217	217	173	138	2372
稼働率	0.97	0.91	0.91	0.98	0.93	0.96	0.9	0.95	0.92	1	0.93	0.85	0.93

注)入所者数は、医療機関への入院者は除く

【要介護度】

令和2年3月31日 現在

	1	2	3	4	5	平均要介護度
従来型	1	1	10	16	17	4.04
ユニット型	0	1	7	6	5	3.79
合計	1	2	17	22	22	3.97

【面会状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
平均面回数	3.0	3.0	2.5	2.5	2.7	2.6	2.4	2.4	2.5	2.5	1.6	0.0	6.9
〃延べ人数	217	275	226	237	259	256	228	225	219	252	135	0	

II 短期入所(ショートステイ)の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
利用人数	28	22	23	20	22	18	19	17	16	13	10	9	18.1
利用延べ日数	330	284	334	321	340	316	282	235	223	165	113	141	257.0
人数/1日	11	9.16	11.13	10.35	10.97	10.53	9.1	7.83	7.19	5.32	3.9	4.55	8.4
平均介護度	2.86	2.64	2.96	2.85	2.64	2.89	2.58	2.59	2.56	2.08	2.30	2.44	2.62

令和1年度 事業報告

在宅支援部
ケアハウス オパール

- ・ **利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する**

あいさつ・コミュニケーションを図り、ご利用者の要望に応じた行事を行うなどサービスの向上に努めた。また、楽しく参加していただけるよう他事業所と連携し新しい夏の行事を実施した。

- ・ **人が活きる職場環境を整備する**

常に事業計画を意識し、共用スペースの美化や掲示物管理、フロアの整理整頓など環境を整備した。感染症や防災など委員会を活用し情報を共有し、物品の確保や対策の確認に努めた。

- ・ **安定した経営を継続する**

長期間の空室を避けるため、外部に情報提供・パンフレットの送付を行い、見学、電話での説明など丁寧に行うなど新入居や入居待機者の増員に努め経営の安定に努めた。

I 入居者の状況

【入居状況】 延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	120	124	120	95	93	116	124	120	124	124	116	124	1400
女性	255	241	270	313	315	311	310	300	310	272	222	255	3374
合計	375	365	390	408	408	427	434	420	434	396	338	379	4774

【退居状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
女性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
合計	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3

【年齢構成】 令和2年3月31日 現在

年齢	60～70歳	71歳～80歳	81歳～90歳	91歳以上	合計
人数	1	2	10	2	15

II 介護状況

【要介護度】 令和2年3月31日 現在

介護度	非該当	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人数	2	0	2	4	4	2	0	0	14

【介護サービス利用状況】 令和2年3月31日 現在

介護サービス	ホームヘルプサービス			デイサービス	デイケア	福祉用具 レンタル
	生活援助	身体介護	介護タクシー			
利用人数	8	3	5	6	2	11

令和1年度 事業報告

在宅支援部
デイサービスセンター オパール

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

オパールに来ることを楽しみにするだけでなく、その活動が在宅生活の活力となるよう、個別ケアを重点に継続した支援を行った。毎月の行事に加え、小旅行等の外出も積極的に行い、利用者が楽しみ・喜びを感じられる活動が増えるような取り組みを継続的に行った。

また、情報共有を密に行い、ご家族の意向に応えられる支援を常に心掛けて行った。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

地域活動（ふくふく堂・児童発達支援センタークムレの園児受け入れ等）に対して、積極的に職員が参加し、地域との交流に努めた。

・優秀な福祉人材を育成する

施設内や資格取得に向けた研修へ積極的に参加することで、高齢者支援に対する理解をより深めるなど人材育成に努めた。職員同士が連携することの重要性や根拠のある介護の理解を深めることを重点目標として、ミーティングなどで相互理解を深めた。

・安定した経営を継続する

稼働率向上を意識した運営を行っているものの、月平均稼働率は 50.1%と前年度 61.8%と比較して減少した。

稼働率向上を目指す為の課題であった個別機能訓練加算は稼働することが出来た。

・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

法令を遵守するために、情報収集と相談を密に行いながら、業務管理体制の構築を継続的に行った。

介護事故に対して、ひやりはっとの活用を継続して行っているが、病院受診を伴う事故が1件あった。原因や対策について職員間で話し合う機会を持ち、チームとして再発防止に努めた。

I 利用者の状況

【利用状況】 延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	0	0	2	2	1	1	2	1	0	0	0	0	9
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	117	110	81	92	89	104	118	100	108	82	77	104	1177
要介護2	186	172	160	152	143	145	144	145	129	115	106	102	1699
要介護3	10	28	22	32	35	27	28	18	30	28	26	36	320
要介護4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護5	8	12	8	11	7	5	10	5	0	0	0	0	66
合計	321	322	273	289	275	282	302	269	267	225	209	242	3271
営業日数	22	23	20	23	22	21	23	21	22	21	20	21	259

【年齢構成】 令和2年3月31日 現在

年齢	40～64歳	65～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	合計
人数	0	2	3	13	8	26

【要介護度】 令和2年3月31日 現在

介護度	要支援1	要支援2				
人数	1	1				
介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人数	9	10	5	0	0	26

令和1年度 事業報告

在宅支援部
オパール居宅介護支援事業所

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

利用者の入院時は「医療・介護連携シート」を活用し、速やかに100%情報提供ができた。情報提供時に退院後の目標を共有し、カンファレンスでは病状やリハビリの進行状況、日常生活動作等の確認を行い、退院後の生活をイメージできるように利用者サービスにサービスの提案を行った。退院時の調整は医療機関に合わせ実施するなどサービスの向上に努めた。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

5月は認定調査の受け方の講演、8月は在宅部行事に地元住民にボランティアの要請、11月は担当利用者とグループホームとの交流の場の設定、独居の方は入退院の連絡等で民生委員とつながることを行った。地域とのつながりの強化のため、行事の呼びかけや地元の手伝いをするなど地域との交流を図った。

・人が活きる職場環境を整備する

自主的な個人の研修・勉強会の参加は4～8回、事業所内の勉強会は感染症について年2回実施、武田病院居宅との合同会議は隔月で実施した。

・安定した経営を継続する

平均介護度は、要介護1.9(予防含まず)。介護予防は総人数の19%(平成30年度15%)と昨年度より4%増加している。

要支援1・2が19%、要介護1が26.9%、要介護2が37.6%、要介護3が11.9%、要介護4が4.4%、要介護5が0.1%と重度者(介4・5)が少なく、介護度が軽い割合が8割を占めている。これは、新規の介護予防サービス対象者が多いこと、身体状態が維持できていること、退院後の在宅復帰が出来ていることなどの傾向をしめしている。

月平均稼働率は72.4%であった。

I 利用者の状況

【年齢構成】 令和2年3月31日 現在

年 齢	～64歳	65～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	合 計
人 数	0	5	11	30	14	60

【要介護度】 令和2年3月31日 現在

介護度	介護予防	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人 数	12	16	19	11	2	0	60

【月別利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護給付	51	53	51	48	50	53	52	54	54	50	48	48	612
介護予防	7	7	8	8	8	8	7	6	7	7	6	6	85
総合事業	4	4	4	4	5	5	5	6	5	5	6	6	59
計	62	64	63	60	63	66	64	66	66	62	60	60	756

II サービス利用状況

令和2年3月31日 現在

種 類	訪問介護	通所介護	短期入所	福祉用具貸与	その他	合 計
人 数	17	17	6	34	37	111
うち淳邦会利用		9	3			12

令和1年度 事業報告

在宅支援部
福田高齢者支援サブセンター

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

相談の電話などを受けて訪問をする時は介護保険などの「このサービスを利用したい」と決めていることが多く、その中で他の必要なサービスや今後どう生活をしたいかと言う思いが明確になるよう聞き取りを行った。「地域の中で生活を続ける」という事を一緒に考えるため、介護保険などの公的な支援だけでなく、地域の中の通い場やサロンなどの情報を伝えることに務めた。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

地域の中に「通いの場」が増えており、水島地区の高齢者支援センターでも「シューイチ百歳体操」の立ち上げと継続の支援を行った。また、以前からあるサロンやシニアクラブの活動、憩いの家や公民館など地域の方の活動は広報誌や回覧板などで紹介されているが、必要な高齢者に情報が伝わっていないこともあるため、情報の把握に努め更新を検討した。

I 総合相談事業等実績報告

		電話	来所	訪問	その他	合計
介護予防事業		0	0	0	0	0
総合事業		0	0	0	0	0
予防給付		0	0	0	0	0
権利擁護		0	0	0	0	0
高齢者虐待	身体的	0	0	0	0	0
	経済的	0	0	0	0	0
	精神的	0	0	0	0	0
	性的	0	0	0	0	0
	介護放棄	0	0	0	0	0
福祉相談・手続代行		26	18	39	0	83
介護保険・手続き代行		14	5	7	0	26
健康・医療		18	16	35	0	69
高齢者以外を対象		0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0
合 計		0	0	0	0	178

令和1年度 事業報告

在宅支援部
グループホーム ひなぎく

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

旬の食材を使った食事とおやつ、行事メニューを常に提供できた。一人ひとりの状態に合わせた食事形態にも心掛けた。ご利用者と一緒に自家菜園で収穫するなど、食に対しての興味が上がるよう工夫した。

ご利用者担当職員から毎月郵送する家族へのお便りや、家族会・面会時に行う個別でのお話しを通じて、一層の情報交換を重ね、ケアプランに活かす等、これまで以上のサービスの提供に努めた。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

地域活動計画を担当者が受け持つことで、地域交流が身近なものになった。祭の参加や受け入れ、施設内で実施している運営推進会議、「いきいきポイント制度活動指定」を受けることにより、地域との繋がりが広まり、地域が求める認知症理解の重要性とその対応を改めて考えることが出来た。

・優秀な福祉人材を育成する

施設外研修と2か月に1度定期的を開催する身体拘束・虐待防止の勉強会などで身近な課題を取り上げ、研修を行った。

・安定した経営を継続する

入居者の退居後には、直ちに次の入居が出来るよう他部署との連携を図り、稼働率は常に95%が維持出来るよう努めた。食材選びや節電に努めるなど、経費削減を全体で心がけた。

・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

業務連絡ノート等を活用し、突発な事故が起きた際にも、問題意識を共有することで管理体制の強化を行った。

I 入居者の状況

【入居状況】 延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	30	31	30	31	62	60	62	60	62	62	58	62	610
要介護2	150	186	180	186	186	192	203	210	217	217	230	248	2405
要介護3	300	310	270	279	279	240	228	206	186	186	163	155	2802
要介護4	30	31	30	31	31	30	31	60	62	62	58	62	518
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	510	558	510	527	558	522	524	536	527	527	509	527	6335
人数/日	17.0	18.0	17.0	17.0	18.0	17.4	16.9	17.8	17.0	17.0	17.5	17.0	17.3

注)入居者数は、医療機関への入院者は除く

【要介護度】 令和2年3月31日 現在

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度
人数	3	7	6	2	0	2.40

【年齢構成】 令和2年3月31日 現在

年齢	65～79歳	80～89歳	90歳以上	合計
人数	3	10	5	18

令和1年度 事業報告

育成推進室

- **利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する**

「全国老人福祉施設研修大会」講師として当法人の取り組みを発表する機会をいただき、質の高いサービスをアピールすることが出来た。

防災活動や介護福祉士養成校生徒に対する発表の機会も多く、質の高いサービスの提供の実践と標準化するための活動を広く行うことが出来た。

- **地域福祉の拠点となる活動を実施する**

「ふくふく堂」を福田南公民館で開催し、17名の方に参加していただいた。また、水島地域で行われる集いの機会に積極的に参加し、地域を支える方々と顔の見える関係作りを行い、地域活動に繋げると共に「淳邦会」を地域の方々に認識してもらうことが出来た。

- **優秀な福祉人材を育成する**

法人の求める人材の獲得に取り組み、実習を通じて介護福祉士養成校から2名の新卒者が入職した。一方で施設外研修への参加、階層別研修の実施には課題を残した

- **人が活きる職場環境を整備する**

職員減少により職員の負担が増加する状況であった。必要とする人材を確保し、やりがいを持てる職場環境作りを進めたが昨年以上の効果があがらなかった。

- **安定した経営を継続する**

職員の退職を防ぐと共にホームページ、SNSを活用した情報の発信、外国人介護士の受け入れの検討等、採用につながる新たな働きかけを行い引き続き安定した経営に務めた。

- **業務管理体制（法令等遵守）を徹底する**

職員一人ひとりが自らの役割を担ううえで把握しておくべき法令を理解することを目指し、多方面から情報を収集し、伝達、共有することを心掛けた。